

〈緑肥利用〉

試験場名	品 種 名	播種日 (月.日)	刈取日 (月.日)	刈取時 草 丈 (cm)	10 a 当 り				試験年次
					生草重 (kg)	左比 (%)	乾草重 (kg)	左比 (%)	
北海道農試	アキユタカ	8.25	10.30	85	3,434	143	393	131	1977~ 1979
	モ イ ワ	8.25	10.30	74	2,394	100	301	100	
中央農試	アキユタカ	8.21	10.26	81	3,555	116	393	114	1978~ 1979
	モ イ ワ	8.21	10.26	79	3,075	100	344	100	

〈普通栽培〉

試験場名	品 種 名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	成熟期における			10 a 当 り		子 実		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	子実重 (kg)	左比 (%)	1立重 (g)	千粒重 (g)	
北海道農試	アキユタカ	7.5	8.5	111	24	317	352	83	545	36.5	1978~ 1979
	モ イ ワ	7.5	8.10	99	25	279	426	100	550	37.5	

- 参照 1) 北海道農務部編, 昭和55年普及奨励ならびに指導参考事項, 3-8 (1980).
 2) 熊谷健, 等, 北海道農業試験場研究報告, 143, 49-64 (1985).
 3) 熊谷健, 農業技術, 35, 509-510 (1980).

4. とうもろこし

(1) リザ (原名 Liza)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第11号

来歴 本品種は, フランスの Pioneer 社が育成したもので, 1978年 (昭53) 以降原名のまま道内で各種の試験を行い, 1981年 (昭56) に優良 (準奨励) 品種に決定した。三系交雑の一代雑種であるが, 構成系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育はほぼ「C535」なみである。
 2. 絹糸抽出期は「C535」とほぼ同じか1日早く, 熟期も「C535」なみかやや早い早生種である。
 3. 稈長, 着雌穂高および稈径は「C535」なみで, 早生品種としては着雌穂高がやや高い。
 4. 耐倒伏性は「C535」なみかやや強い。
 5. すず紋病に対する抵抗性は弱く, ほぼ「C535」なみ, ごま葉枯病に対しては「C535」より弱い。
 6. 収量性は場所による変動はあるが, 概ね「C535」なみと考えられる。

栽培適地と奨励態度 十勝中央部の周辺, 網走の内陸とその周辺, 根釧内陸および道北の内陸など「C535」の栽培可能地帯を適地とする。また栽培上の注意は「C535」に準ずる。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	リ ザ	8.3	230	104	黄中~後	4,554	1,284	906	104	70.4	1979~ 1980
	C 5 3 5	8.4	238	104	黄中~後	4,777	1,212	870	100	71.7	

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 雌 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	T D N (kg)	左比 (%)		
北見農試	リ ザ	8. 8	220	97	黄 後	5,255	1,483	1,054	104	70.7	1978~
	C 5 3 5	8.10	220	100	黄初~中	5,288	1,443	1,011	100	69.7	1980
根釧農試	リ ザ	8.16	202	88	黄 中	4,985	1,173	826	97	70.1	1978~
	C 5 3 5	8.17	211	92	黄 中	4,965	1,211	853	100	70.0	1980
天北農試	リ ザ	8.14	169	67	黄 初	4,437	1,034	729	104	70.4	1978~
	C 5 3 5	8.14	166	63	糊初~中	4,567	994	704	100	70.4	1980

注) 収穫時の熟度表示は次による。乳：乳熟，糊：糊熟，黄：黄熟。初：初期，中：中期，後：後期。以下これに倣う。

参照 1) 北海道農務部編，昭和56年普及奨励ならびに指導参考事項，54-58 (1981)。

(2) ワセミノリ (旧系統名 SH-250)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第12号

来歴 本品種は，フランスのノースラップキング種子会社が育成したもので，1979年(昭54)以降「SH-250」の系統名で各種の試験を行い，1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。三系交雑の一代雑種であるが，構成系統名は不明である。

特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「ワセホマレ」より劣る。

2. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」なみか1~2日早い，熟期は「ワセホマレ」よりやや遅い。

3. 稈長は「ワセホマレ」より低く，着雌穂高は高い。稈径は「ワセホマレ」より細い。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」より劣るが，折損は少ない。

5. すず紋病に対する抵抗性は弱で，「ワセホマレ」より弱い。ごま葉枯病に対する抵抗性は「ワセホマレ」なみと考えられる。

6. 収量は道北や根釧では「ワセホマレ」よりまさり，十勝や北見では「ワセホマレ」より劣る。また乾物中のT D N割合は「ワセホマレ」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道北並びに根釧地帯を栽培適地とする。また栽培上の注意は「ワセホマレ」に準ずるが，すず紋病の多発が予想されるところではこの病害の発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 雌 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	T D N (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ワセミノリ	8. 5	192	75	黄中~後	3,615	945	679	92	71.5	1979~
	ワセホマレ	8. 4	215	71	黄 後	3,744	1,054	742	100	70.3	1981
北見農試	ワセミノリ	8. 9	182	81	黄初~中	4,005	1,002	713	93	71.2	1980~
	ワセホマレ	8.11	201	72	黄 中	4,412	1,104	765	100	69.4	1981
根釧農試	ワセミノリ	8.23	171	69	黄 初	4,035	931	663	109	71.3	1979~
	ワセホマレ	8.23	176	57	黄 初	3,633	867	607	100	70.0	1981
上川農試	ワセミノリ	7.29	194	86	黄 後	4,695	1,307	950	103	72.7	1981
	ワセホマレ	7.30	210	82	完 熟	3,991	1,264	918	100	72.6	
天北農試	ワセミノリ	8.20	137	52	糊 中	3,504	743	532	110	71.4	1979~
	ワセホマレ	8.20	146	45	糊 中	3,415	693	482	100	68.9	1981

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生 総 重 (kg)	乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	左 比 (%)		
天北農試	ワセミノリ	8. 6	159	65	黄 中	3,944	1,023	740	116	72.5	1980～
天塩支場	ワセホマレ	8. 8	176	57	黄中～後	3,249	900	640	100	70.7	1981

参照 1) 北海道農務部編, 昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項, 36-39 (1982).

(3) ニューデント・85日 (旧系統名 SH-10)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸第13号

来歴 本品種は, フランスのノースラップキング種子会社が育成したもので, 1978年(昭53)以降「SH-10」の系統名で各種の試験を行い, 1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑の一代雑種であるが, 両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 絹糸抽出期は「C535」より1～2日早く, 熟期は「C535」とほぼ同じの早生種である。
2. 稈長, 着穂穂高は「C535」より低い。
3. 耐倒伏性は「C535」なみかややまさる。
4. すず紋病に対しては「C535」と同様に弱く, ごま葉枯病に対しては「C535」よりやや弱い。また不稔個体を発生する場合がある。
5. 収量性は場所によって異なるが, 道北地帯では「C535」よりややまさる。

栽培適地と奨励態度 道北地域の中で「C535」が栽培できる地帯を適地とする。また栽培上の注意は「C535」に準ずるが, すず紋病やごま葉枯病の多発が予想される場所では, これらの病害発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着 穂 高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 T D N (%)	試験年次
						生 総 重 (kg)	乾 総 重 (kg)	T D N (kg)	左 比 (%)		
十勝農試	ニューデント・85日	8. 4	216	89	黄 中	4,492	1,141	806	97	70.1	1978～
	C535	8. 5	230	101	黄 中	4,458	1,170	833	100	70.9	1981
北見農試	ニューデント・85日	8.10	190	81	黄 初	4,910	1,273	903	95	70.5	1978～
	C535	8.12	213	95	黄 初	5,265	1,359	947	100	69.3	1981
根釧農試	ニューデント・85日	8.20	182	76	黄 初	4,816	1,058	748	95	70.3	1978～
	C535	8.21	195	83	黄初～中	4,756	1,126	787	100	69.4	1981
上川農試	ニューデント・85日	8. 1	196	82	完 熟	5,153	1,350	967	95	71.6	1981
	C535	7.31	211	91	完 熟	5,403	1,437	1,021	100	71.1	
天北農試	ニューデント・85日	8.18	161	62	糊 中	4,682	956	670	106	69.5	1978～
	C535	8.18	161	63	糊 中	4,340	906	634	100	69.4	1981
天北農試	ニューデント・85日	8. 7	171	66	黄 後	4,672	1,156	813	106	70.0	1978～
天塩支場	C535	8. 8	177	68	黄 後	4,395	1,078	770	100	71.3	1981

参照 1) 北海道農務部編, 昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項, 40-44 (1982).

(4) ブルータス(旧系統名 MTC-1)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第14号

来歴 本品種は、フランスのニッカーソン社とUCOPACが共同で育成したもので原名为 Brutus という。1978年(昭53)以降「MTC-1」の系統名で各種の試験を行い、1982(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。三系交雑(フロント種×デント種)の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽に要する日数は「C535」なみであるが、初期生育は若干劣る。
 2. 絹糸抽出期は「C535」より1~2日早く、熟期も「C535」より若干早い早生種である。
 3. 稈長、着雌穂高とも「C535」よりやや低いが、稈はやや太い。
 4. 耐倒伏性は「C535」なみかやや劣る。
 5. すず紋病、ごま葉枯病に対する抵抗性は「C535」なみである。
 6. 収量性は「C535」と大差ない。

栽培適地と奨励態度 十勝中央部の周辺、網走の内陸とその周辺、根釧内陸および道北の内陸など、「C535」の栽培可能地帯を適地とする。また、栽培上の注意は「C535」に準ずる。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ブルータス	8.4	205	86	黄 中	4,360	1,163	825	99	70.5	1978~
	C535	8.5	230	101	黄 中	4,458	1,170	833	100	70.9	1981
北見農試	ブルータス	8.14	191	83	糊 後	4,575	1,096	747	99	68.1	1980~
	C535	8.16	206	90	糊 中	4,949	1,119	755	100	67.5	1981
根釧農試	ブルータス	8.25	168	70	黄 初	4,494	1,002	691	102	68.8	1979~
	C535	8.27	187	78	糊 後	4,531	986	675	100	68.3	1981
天北農試	ブルータス	8.23	148	59	糊 初	3,861	776	533	102	68.4	1979~
	C535	8.22	154	58	糊 初	3,973	762	522	100	68.4	1981
天北農試 天塩支場	ブルータス	8.8	165	66	黄	4,513	1,170	827	115	70.6	1979~
	C535	8.9	172	66	黄	4,230	1,011	717	100	70.9	1981

参照 1) 北海道農務部編。昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項。45-47 (1982)。

(5) バッファロー(旧系統名 SH-145)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第15号

来歴 本品種は、アメリカのPAG Seed社が育成したもので、1976年(昭51)以降「SH-145」の系統名で各種の試験を行い、1982年(昭57)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 初期生育は中程度で、「ホクユウ」よりやや劣る。
 2. 絹糸抽出期は「ホクユウ」とほぼ同じであるが、熟期は「ホクユウ」よりやや遅い。
 3. 稈長は「ホクユウ」よりやや長く、着雌穂高も高い。また分けつの発生はない。
 4. 耐倒伏性は強に属し、「ホクユウ」より明らかにまさる。

5. すず紋病抵抗性は中～やや弱で「ホクユウ」なみかやや劣り、ごま葉枯病に対してはやや弱～弱で「ホクユウ」なみである。
6. 収量性は「ホクユウ」なみかややまさる。また乾物中の雌穂重割合は「ホクユウ」より高い。

栽培適地と奨励態度 十勝，網走管内で気象条件の良好な地帯，道央北部とこれに類する地帯を栽培適地とする。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが，初期生育がやや劣り，熟期も「ホクユウ」よりやや遅いので，早期播種と初期除草につとめる。またすず紋病やごま葉枯病には弱いので注意を要する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫期 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
十勝農試	バッファロー	8.12	248	112	糊 後	4,602	1,183	822	109	69.0	1976～ 1981
	ホクユウ	8.11	236	101	黄 初	4,273	1,108	754	100	68.0	
北見農試	バッファロー	8.16	228	112	黄 初	5,445	1,433	989	105	68.6	1977～ 1981
	ホクユウ	8.17	225	96	黄 中	5,485	1,405	938	100	66.9	
上川農試	バッファロー	8.7	228	115	黄 中	5,092	1,311	901	105	68.7	1980～ 1981
	ホクユウ	8.7	232	103	黄 後	4,697	1,268	860	100	67.8	
天北農試	バッファロー	8.11	213	92	黄	5,220	1,395	960	111	68.8	1978
天塩支場	ホクユウ	8.11	198	76	黄	4,820	1,265	865	100	68.4	

参照 1) 北海道農務部編，昭和57年普及奨励ならびに指導参考事項，48—51 (1982)。

(6) ダイヘイゲン (旧系統名 道交S4号)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)北海道交第16号
：(農水省)とうもろこし農林交23号；(種苗法)第602号

来歴 本品種は，1972年(昭47)に北海道立十勝農業試験場において，「To9×To15」(フリント種)を母，「W79A×RB262」(デント種)を父として作出した複交雑の一代雑種である。1975年(昭50)より「十交131」，1977年(昭52)以降「道交S4号」の系統名で各種の試験を行い，1983年(昭58)に優良(奨励)品種に決定した。

なお本品種の構成自殖系統の来歴は次のとおりである。

To9：十勝地方の在来種「山本種」から育成したフリント種

To15：「黄早生」×「坂下種と山本種の混合花粉」の自殖によって育成したフリント種

W79A：アメリカのウィスコンシン大学より導入したデント種

RB262：フランスのリマグラン社より導入したデント種

- 特性概要 1. 出芽や初期生育は，既存品種中最も良好な「ワセホマレ」に匹敵する。
2. 稈長，着雌穂高は「ワセホマレ」より高く，稈径は「ワセホマレ」よりやや細い。
3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より1～2日遅く，「C535」と同じか1日早い早生種である。
- 登熟は早く，道東，道北の内陸部では9月中～下旬，山麓，沿海部では9月下旬～10月上旬

に黄熟期に達する。

4. 雌穂の諸形質は「ワセホマレ」に類似し、粒列数は12行前後、1列粒数は33粒前後と多く、子実粒はデントがかったフリント種である。
5. 耐倒伏性は「ワセホマレ」なみで「C535」よりやや強い。
6. すず紋病抵抗性は弱で、「ワセホマレ」より劣り「C535」なみである。ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」なみで、「C535」よりやや弱い。
7. 生総重、乾総重、TDN収量は「ワセホマレ」より明らかに多い。また「C535」より乾雌穂収量が多く、TDN収量はまさる。乾物中のTDN割合は「ワセホマレ」なみに高く、サイレージ用原料としてすぐれている。
8. 採種栽培では両親の同時播種が可能で、採種量も多い。

栽培適地と奨励態度 道東、道北ならびに道央北部において、「ワセホマレ」の一部と「C535」におきかえる。また栽培上の注意は「ワセホマレ」に準ずるが、すず紋病抵抗性が劣るので、肥培管理には留意する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ダイハイゲン	8.3	233	88	黄後	3,999	1,102	800	104	72.4	1977~
	ワセホマレ	8.2	215	69	黄後	3,641	1,079	771	100	71.3	1982
北見農試	ダイハイゲン	8.7	213	81	黄後	4,862	1,328	955	111	71.8	1977~
	ワセホマレ	8.6	203	67	黄後	4,391	1,208	860	100	71.2	1982
根釧農試	ダイハイゲン	8.20	198	78	黄初~中	4,570	1,099	775	107	70.2	1977~
	ワセホマレ	8.18	193	66	黄中~後	4,055	1,021	726	100	70.9	1982
上川農試	ダイハイゲン	7.29	220	85	完熟	3,825	1,244	902	113	72.5	1977~
	ワセホマレ	7.28	206	69	完熟	3,250	1,104	799	100	72.3	1982
天北農試	ダイハイゲン	8.21	170	63	糊初~中	4,333	924	645	109	69.2	1977, 1979~
	ワセホマレ	8.20	157	46	糊中~後	4,028	844	594	100	69.9	1982
天北農試 天塩支場	ダイハイゲン	8.8	184	70	黄中~後	4,014	1,132	820	106	72.2	1977~
	ワセホマレ	8.7	176	55	黄後~完	3,582	1,068	777	100	72.6	1982
北海道農試	ダイハイゲン	8.3	180	65	黄初~中	4,064	1,139	823	110	72.3	1977~
	ワセホマレ	8.2	166	49	黄中	3,681	1,031	748	100	72.6	1982

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、27-32 (1983)。

(7) R X 42 (原名 R X 42)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第16号

来歴 本品種は、アメリカのアスグロ種子会社が育成したもので、1979年(昭54)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デ

ント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より2～3日遅く、熟期も「ホクユウ」より遅い。
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。
 5. すず紋病抵抗性は「ホクユウ」と同じで中～やや弱、ごま葉枯病抵抗性も「ホクユウ」なみである。
 6. 不稔個体の発生率は場所による変動はあるが、「ホクユウ」とほぼ同じと考えられる。
 7. 収量性は「ホクユウ」よりまさるが、気象条件の良い所では「ホクユウ」より劣る。
 また乾総重中の雌穂重割合は「ホクユウ」より高く、乾物中のTDN割合も「ホクユウ」より高い。しかし収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」より低い。

栽培適地と奨励態度 十勝中部ならびに道央北部を適地とするが、より温暖な地域では、晩生品種との配合利用も考えられる。また栽培上の注意としては、「ホクユウ」より初期生育が劣り、熟期もやや遅いので、適期播種や初期除草につとめ、すず紋病の多発が予想される地域では肥培管理に留意する。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	R X 42	8.15	253	130	糊 後	5,006	1,254	863	117	68.1	1979～
	ホクユウ	8.13	240	99	黄 中	4,415	1,151	779	100	67.3	1982
北見農試	R X 42	8.23	227	113	糊中～後	4,982	1,276	861	88	67.5	1981～
	ホクユウ	8.20	226	86	黄 中	5,569	1,444	980	100	67.9	1982
上川農試	R X 42	8. 8	250	132	黄 中	5,598	1,512	1,052	120	69.6	1980～
	ホクユウ	8. 8	234	102	黄 後	4,650	1,284	879	100	68.5	1982

参照 1) 北海道農務部編. 昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項. 57-61 (1983).

(8) J X 92 (原名 J X 92)

登録番号: (北海道)とうもろこし(飼)準輸第17号

来歴 本品種は、アメリカの Jacques Seed 社が育成したもので、1976年(昭51)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1983年(昭58)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より1～2日遅く、登熟の進みも遅い。
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。
 5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」とほぼ同程度である。

6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみである。

7. 生総重、乾総重、TDN収量はいずれも「ホクユウ」よりまさるが、気象条件のあまり良くない所では「ホクユウ」より劣る。また乾物中のTDN割合は「ホクユウ」より高いが、収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 道央ならびに十勝中部地域など気象条件の良好な地域に適する。また栽培上の注意は初期生育と熟度の進みが遅いため適期播種と初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
中央農試	J X 92	8. 6	232	108	黄 中	5,451	1,462	1,037	107	70.2	1979
	ホクユウ	8. 5	229	92	黄 後	5,040	1,392	965	100	69.4	1980 1982
上川農試	J X 92	8. 8	246	126	黄 後	5,591	1,376	951	109	69.1	1981~
	ホクユウ	8. 8	232	99	黄 後	4,570	1,280	876	100	68.4	1982
十勝農試	J X 92	8.18	237	115	糊中~後	4,220	1,013	677	109	66.3	1981~
	ホクユウ	8.16	220	84	黄 中	3,810	922	623	100	67.1	1982
北見農試	J X 92	8.22	233	109	糊 中	5,639	1,291	865	93	67.0	1976~ 1977
	ホクユウ	8.19	221	86	黄 初	5,782	1,390	934	100	67.2	1981~ 1882

参照 1) 北海道農務部編、昭和58年普及奨励ならびに指導参考事項、62-66 (1983)。

(9) デントン (旧系統名 MTC-1C)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準給第18号

来歴 本品種は、アメリカの North American Plant Breeders 社が育成したもので、1980年(昭55)以降「MTC-1C」の系統名で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。

2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より2~3日遅く、登熟の進みも遅い。

3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」より高い。

4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強い。

5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」なみである。

6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみである。

7. 乾物収量、栄養収量とも「ホクユウ」より多いが、気象条件のよくない所では「ホクユウ」よりやや劣る。また収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 道央北部を除く道央地域ならびに道南地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟の進みが「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種や初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (%)	左比 (%)		
中央農試	デントン	8.10	229	110	黄 初	5,682	1,555	1,085	113	69.8	1980～
	ホクユウ	8. 8	219	92	黄中～後	5,015	1,387	964	100	69.5	1983
道南農試	デントン	8.11	214	99	糊後～黄初	4,288	1,352	921	113	68.1	1981～
	ホクユウ	8. 7	196	83	黄 中	4,167	1,201	816	100	68.0	1982
上川農試	デントン	8.10	247	122	黄 後	5,551	1,416	964	110	68.1	1980～
	ホクユウ	8. 8	234	102	黄 後	4,650	1,284	879	100	68.5	1982
十勝農試	デントン	8.20	245	108	糊 初	4,475	980	646	107	65.2	1981～
	ホクユウ	8.18	221	86	黄 初	3,932	901	605	100	66.8	1983

参照 1) 北海道農務部編。昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項。44—45 (1984)。

(10) P3906 (原名 P3906)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸第19号

来歴 本品種は、アメリカの Pioneer 種子会社が育成したもので、1980年(昭55)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1984年(昭59)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

- 特性概要 1. 出芽は「ホクユウ」なみに良いが、初期生育は「ホクユウ」よりやや劣る。
 2. 中生種に属するが、絹糸抽出期は「ホクユウ」より1～2日遅く、天候不良の場合はさらに遅れる。また登熟の進みも「ホクユウ」より遅い。
 3. 稈長や着雌穂高は「ホクユウ」とほぼ同じである。
 4. 耐倒伏性は「ホクユウ」より強いが、強風による折損は「ホクユウ」より多い。
 5. すず紋病およびごま葉枯病に対する抵抗性は「ホクユウ」なみである。
 6. 不稔個体の発生率は「ホクユウ」なみ～やや低い。
 7. 生総重、乾総重は「ホクユウ」よりまさり、乾物中のTDN割合も「ホクユウ」より高いため、TDN収量は「ホクユウ」より多い。しかし気象条件の良い所では生総重、乾総重が「ホクユウ」より劣る。また収穫時における総体の乾物率は「ホクユウ」より低い。

栽培適地と奨励態度 北部地方を除く道央地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟の進みが「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種や初期除草につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当 り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
中央農試	P3906 ホクユウ	8.12	202	85	黄中～後	5,459	1,554	1,137	116	73.2	1982～
		8.11	209	87	黄 後	4,918	1,365	979	100	71.7	1983
上川農試	P3906 ホクユウ	8.11	232	101	黄 中	5,516	1,402	977	113	69.7	1981～
		8.10	232	101	黄 後	4,885	1,262	861	100	68.2	1983
十勝農試	P3906 ホクユウ	8.18	236	96	糊 後	4,861	1,111	763	115	68.2	1980～
		8.16	231	95	黄初～中	4,183	991	661	100	66.5	1983
北見農試	P3906 ホクユウ	8.29	205	80	乳 後	4,735	1,089	725	87	66.6	1981～
		8.24	220	79	糊 中	5,208	1,261	836	100	66.2	1983

参照 1) 北海道農務部編, 昭和59年普及奨励ならびに指導参考事項, 46—47 (1984).

(II) ヒノデワセ (旧系統名 道交S8号)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 北海道交第17号

: (農水省) とうもろこし農林交25号: (種苗法) 第1209号

来歴 本品種は, 1976年(昭51)に北海道立十勝農業試験場において, 「N19×To38」(フリント種)を母, 「W41A×W79A」(デント種)を父として作出した複交雑の一代雑種である。1979年(昭54)に「十交S27」, 1980年(昭55)以降「道交S8号」の系統名で各種の試験を行い, 1985年(昭60)に優良(奨励)品種に決定した。

なお, 本品種の構成自殖系統の来歴は次のとおりである。

N19: 元優良品種「坂下」から育成したフリント種(「ヘイゲンワセ」, 「ワセホマレ」の構成系統)

To38: 「黄早生」×「坂下種と山本種の混合花粉」の自殖によって育成したフリント種

W41A: アメリカのウイスコンシン大学より導入したデント種(「ヘイゲンワセ」の構成系統)

W79A: 同上(「ヘイゲンワセ」, 「ダイヘンゲン」の構成系統)

- 特性概要
1. 低温発芽性がまさり, 出芽や初期生育は「ワセホマレ」と同様に良好である。
 2. 稈長は「ワセホマレ」より低いが, 着雌穂高はやや高く, 稈径はやや細い。
 3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より2日早い早生種。登熟も「ワセホマレ」より良好で, とくに雌穂の乾物率が高い。
 4. 雌穂の諸形質は「ワセホマレ」に類似し, 粒列数は10～12行, 1列粒数は「ワセホマレ」なみで子実千粒重は「ワセホマレ」よりやや重い。子実粒はデントがかったフリント種である。また子実重は「ワセホマレ」よりやや高い。
 5. 耐倒伏性は「ワセホマレ」よりややまさる。
 6. すず紋病に対しては「ワセホマレ」より弱く, ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」よりやや強い。
 7. 道東, 道北においては乾総重, TDN収量は「ワセホマレ」なみであるが, 登熟が良く乾

総重中の雌穂率が高いため、気象的に不良な条件下ではこれらの収量は「ワセホマレ」よりもさき、安定性も高い。

8. 乾物中のTDN割合が「ワセホマレ」より高く、サイレージ原料としてすぐれている。

9. 採種栽培では両親の同時播種が可能で、採種量多く、雌穂の登熟が良好であるため収穫後の乾燥も容易である。

栽培適地と奨励態度 道東、道北の山麓、沿岸地帯で、早生の中に属する品種の登熟が不十分なところを適地とする。栽培に当たってはすす紋病抵抗性が劣るので、適期播種と適正な肥培管理を行う。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月・日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (%)	左比 (%)		
十勝農試	ヒノデワセ	7.31	183	62	黄後～完	3,185	929	682	91	73.5	1977～
	ワセホマレ	8.3	201	65	黄後	3,503	1,052	750	100	71.3	1984
北見農試	ヒノデワセ	8.7	184	68	黄中～後	4,171	1,101	786	95	71.3	1979～
	ワセホマレ	8.10	197	64	黄中～後	4,483	1,170	824	100	70.4	1984
根釧農試	ヒノデワセ	8.21	176	67	黄初	3,527	826	584	99	69.4	1979～
	ワセホマレ	8.23	186	61	黄後～黄初	3,460	840	587	100	68.4	1984
上川農試	ヒノデワセ	7.28	197	76	完	3,679	1,080	786	105	72.7	1979～
	ワセホマレ	7.29	209	73	完	3,446	1,045	751	100	71.8	1984
天北農試	ヒノデワセ	8.19	153	54	糊中～後	3,625	824	591	106	70.8	1979～
	ワセホマレ	8.21	156	49	糊中	3,441	789	556	100	68.9	1984
天北農試 天塩支場	ヒノデワセ	8.6	171	59	黄後	3,175	943	691	102	73.4	1980～
	ワセホマレ	8.8	180	55	黄後	3,367	944	677	100	71.7	1982
北海道農試	ヒノデワセ	8.1	163	57	黄後	3,555	1,013	738	91	72.9	1979～
	ワセホマレ	8.3	170	52	黄中～後	3,754	1,115	807	100	72.5	1984

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 40-43 (1985).

2) 長谷川寿保, 農業技術, 41, 26-27 (1986).

(12) P3732 (原名 P3732)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第20号

来歴 本品種は、アメリカの Pioneer 種子会社が育成したもので、1982年(昭57)以降原名のまま道内で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、両親の系統名は不明である。

特性概要 1. 初期生育は「P3715」よりもさきだが「ホクユウ」より劣る。

2. 稈長、着雌穂高は「ホクユウ」より高く、「P3715」なみかやや高い。

3. 絹糸抽出期は「ホクユウ」と「P3715」の中間で、中生種の中に属する。

4. 耐倒伏性は「P3715」なみで、「ホクユウ」より強い。

5. すず紋病に対しては「P3715」より強く、ごま葉枯病に対しては「P3715」なみで「ホクユウ」より強い。また不稔個体発生率は「P3715」や「ホクユウ」よりやや少ない。

6. 乾総重、TDN収量はともに「P3715」、「ホクユウ」より多い。

7. 乾総重中の雌穂重割合やTDN割合はいずれも「P3715」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度 道央及び道南地域に適する。また栽培上の注意は「ホクユウ」に準ずるが、初期生育や登熟が「ホクユウ」よりやや劣るので、適期播種と適正な肥培管理につとめる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
北海道農試	P 3 7 3 2	8.13	209	104	黄 後	5,505	1,619	1,166	114	72.0	1983～
	P 3 7 1 5	8.16	209	101	黄 後	5,292	1,441	1,025	100	71.1	1984
中央農試	P 3 7 3 2	8.11	219	83	黄 中	5,619	1,603	1,156	107	72.1	1982～
	P 3 7 1 5	8.14	217	97	黄 中	5,774	1,527	1,080	100	70.7	1984
上川農試	P 3 7 3 2	8. 8	251	126	黄 中	5,303	1,469	1,007	114	68.6	1982～
	P 3 7 1 5	8.11	250	123	黄 初	5,169	1,316	885	100	67.2	1984

参照 1) 北海道農務部編, 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項, 52-53 (1985).

(13) ロイヤルデント85 (旧系統名 LG5)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第21号

来歴 本品種は、フランスのリマグラン社が育成したもので、1981年(昭56)以降「LG5」の系統名で各種の試験を行い、1985年(昭60)に優良(準奨励)品種に決定した。複交雑の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。

特性概要 1. 初期生育は「ワセホマレ」よりやや劣る。

2. 稈長は「ワセホマレ」なみで、着雌穂高は「ワセホマレ」より高い。

3. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」なみ～1日早い早生種である。登熟は「ワセホマレ」よりやや遅い。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」なみ～やや強い。

5. すず紋病抵抗性は「ワセホマレ」より劣り、ごま葉枯病に対しては「ワセホマレ」よりやや弱い。

6. 乾総重, TDN収量は場所によって多少のふれがあるが、ほぼ「ワセホマレ」なみである。

栽培適地と奨励態度 道北, 網走及び根釧地域の内陸, 並びに十勝の山麓, 沿海で気象条件の良い地帯を適地とし, 栽培上の注意は, 他の早生品種に準ずる。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
十勝農試	ロイヤルデント85	8. 6	198	77	黄 中	3,369	863	623	95	71.9	1981～
	ワセホマレ	8. 6	200	64	黄中～後	3,305	903	657	100	72.7	1984
北見農試	ロイヤルデント85	8.10	185	73	黄 中	3,985	1,098	785	97	71.0	1982～
	ワセホマレ	8.11	195	58	黄中～後	4,301	1,148	810	100	70.2	1984
根釧農試	ロイヤルデント85	8.23	197	82	糊 後	3,304	864	610	108	67.5	1982～
	ワセホマレ	8.22	196	66	糊 後	3,286	812	566	100	66.8	1984

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
上川農試	ロイヤルデント85	8.4	213	96	黄後～完	4,779	1,178	832	120	70.6	1982～
	ワセホマレ	8.5	214	78	糊 後	3,771	980	692	100	70.6	1983
天北農試	ロイヤルデント85	8.22	166	68	糊中～後	3,365	861	619	98	69.4	1982～
	ワセホマレ	8.23	165	53	糊中～後	3,466	885	630	100	68.8	1984

参照 1) 北海道農務部編. 昭和60年普及奨励ならびに指導参考事項. 54-55 (1985).

(14) エマ (旧系統名 PH1201)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 準輸交第22号

来歴 本品種は、フランスの Pioneer 社が育成したもので、1982年 (昭57) 以降「PH1201」の系統名で各種の試験を行い、1986年 (昭61) に優良 (準奨励) 品種に決定した。変形単交雑 (フロント種×デント種) の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。なお本品種は、品種名「EMA」で、1982年 (昭57) OECDに登録されている。

特性概要 1. 出芽は「ワセホマレ」なみに良好で、初期生育は「ワセホマレ」よりやや劣るが、「ワセミノリ」より優れる。

2. 絹糸抽出期は「ワセホマレ」より約2日早く、熟期も「ワセホマレ」より若干早い早生の早に属する。

3. 稈長は「ワセホマレ」より短いが、着雌穂高は「ワセホマレ」よりやや高い。雌穂は短く、円錐型を呈する。

4. 耐倒伏性は「ワセホマレ」「ワセミノリ」よりまさる。

5. すず紋病抵抗性は「ワセホマレ」より弱く、ごま葉枯病抵抗性は「ワセホマレ」と同程度である。

6. 道東、道北地域における本品種のTDN収量は、「ワセホマレ」なみ～ややまさるが、十勝ではやや劣る。乾物中のTDN割合は「ワセホマレ」よりやや高く、「ワセミノリ」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は、道北および根釧地域で、栽培上の注意は他の早生品種に準ずる。ただし、すず紋病の発生軽減のために適正な肥培管理を行う。また初期生育が劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行う。

試験場名	品種名	絹糸抽出期 (月.日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	収穫時 熟度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
天北農試	エ マ	8.18	159	63	糊 後	3,556	918	658	104	69.6	1983～
	ワセホマレ	8.21	167	52	糊中～後	3,511	891	633	100	68.9	1985
根釧農試	エ マ	8.22	185	74	糊 後	3,168	835	593	108	67.7	1983～
	ワセホマレ	8.23	205	65	糊中～後	3,345	790	549	100	66.7	1985
十勝農試	エ マ	8.3	176	64	黄中～後	3,120	854	624	93	73.2	1982～
	ワセホマレ	8.5	206	66	黄 中	3,257	920	673	100	73.1	1985

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着 穂 穂高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生 穂 重 (kg)	乾 穂 重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
北見農試	エ マ	8.25	165	56	黄 初	3,833	902	619	99	68.6	1983
	フセホマレ	8.30	174	48	糊 中	4,722	934	627	100	67.1	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 32-33 (1986).

(15) ディア (旧系統名 PH2202)

登録番号: (北海道) とうもろこし (飼) 単輪交第23号

来歴 本品種は, フランスの Pioneer 社が育成したもので, 1982年 (昭57) 以降「PH2202」の系統名で各種の試験を行い, 1986年 (昭61) に優良 (準奨励) 品種に決定した。単交雑 (デント種×フリント種) の一代雑種であるが, 構成系統名は不明である。なお本品種は, 品種名「DEA」で, 1980年 (昭55) OECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「C535」なみかやや劣る。
 2. 絹糸抽出期は「C535」より1~2日遅く, 熟期も「C535」よりやや遅い早生の晩に属する品種である。
 3. 稈長は「C535」なみで, 着穂穂高は「C535」よりやや高い。
 4. 耐倒伏性は「C535」よりまさる。
 5. すず紋病抵抗性は「C535」と同様に弱く, ごま葉枯病抵抗性は「C535」よりやや弱く, 「ホクユウ」なみである。
 6. TDN収量は「C35」よりややまさり, 乾物中のTDN割合は「C535」と同程度である。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は十勝, 網走 (ただし, 気象条件の不良な地帯を除く) および道央北部で, 栽培上の注意は「C535」に準ずる。初期生育が劣るので適正な肥培管理を行う。また, すず紋病の発生に留意する。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着 穂 穂高 (cm)	収 穫 時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生 穂 重 (kg)	乾 穂 重 (kg)	TDN (kg)	左 比 (%)		
十勝農試	デ ィ ア	8. 8	230	93	黄初~中	4,216	1,126	810	107	71.8	1982~ 1985
	C 5 3 5	8. 7	213	85	黄 中	4,136	1,041	754	100	72.3	
北見農試	デ ィ ア	8.12	201	78	黄 初	4,561	1,229	874	101	70.3	1983~ 1985
	C 5 3 5	8.13	191	81	黄 初	4,844	1,227	865	100	69.7	
上川農試	デ ィ ア	8. 5	230	103	黄 後	4,665	1,317	941	114	71.5	1983 1985
	C 5 3 5	8. 4	209	92	黄後~完	4,563	1,168	829	100	70.9	
根釧農試	デ ィ ア	9.24			未 乳	2,874	384	223	134	58.2	1983
	C 5 3 5	9.24			未 乳	2,424	287	167	100	58.2	
天北農試	デ ィ ア	9.22	141	54	未 乳	2,546	379	230	94	60.7	1983
	C 5 3 5	9.19	136	54	未 乳	2,975	400	244	100	61.0	

参照 1) 北海道農務部編, 昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項, 34-35 (1986).

(16) ソロ100H (旧系統名 TH211A)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交第24号

来歴 本品種は、西ドイツのKWS社が育成したもので、1982年(昭57)以降「TH211A」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×フリント種)の一代雑種であるが構成系統名は不明である。なお本品種は、品種名「S O L O」で、1982年(昭57)OECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「バッファロー」よりやや劣る。
 2. 絹糸抽出期は「バッファロー」より1日程度遅いが、熟期は「バッファロー」なみかやや早く、中生の中に属する。
 3. 稈長は「バッファロー」より高いが、着雌穂高は「バッファロー」なみである。
 4. 耐倒伏性は「バッファロー」よりやや弱く、「ホクユウ」より強い。
 5. すず紋病抵抗性は「バッファロー」なみ、ごま葉枯病抵抗性は「ホクユウ」なみで「バッファロー」より強い。
 6. TDN収量は「バッファロー」なみで、乾物中のTDN割合は「バッファロー」よりやや低い。

栽培適地と奨励態度 栽培適地は道央地域。栽培に当たっては、初期生育がやや劣るので、肥料やけや初期雑草の対策を十分に行い、生育促進に努める。また収穫時の乾物率がやや低いので適正な栽植密度を保つ。

試験場名	品 種 名	絹 糸 抽出期 (月.日)	稈 長 (cm)	着雌 穂高 (cm)	収穫時 熟 度	10 a 当り				乾物中 TDN (%)	試験年次
						生総重 (kg)	乾総重 (kg)	TDN (kg)	左比 (%)		
中央農試	ソロ100H	8. 8	233	106	黄 後	5,535	1,633	1,180	103	72.3	1983～ 1985
	バッファロー	8. 7	227	108	黄 中	5,240	1,579	1,142	100	72.3	
上川農試	ソロ100H	8.10	262	119	黄 後	5,531	1,391	981	101	70.5	1983 1985
	バッファロー	8.10	251	120	黄中～後	5,245	1,391	967	100	69.3	
十勝農試	ソロ100H	8.14	271	117	糊 後	4,915	1,120	776	95	69.0	1983～ 1985
	バッファロー	8.12	249	113	糊中～後	4,779	1,167	819	100	69.9	
北見農試	ソロ100H	8.19	237	100	糊 後	5,013	1,336	927	105	68.1	1983～ 1985
	バッファロー	8.17	214	95	糊中～後	4,626	1,261	886	100	69.0	

参照 1) 北海道農務部編、昭和61年普及奨励ならびに指導参考事項、36-37 (1986)。

(17) P3747 (旧系統名 PH3201)

登録番号：(北海道)とうもろこし(飼)準輸交第25号

来歴 本品種は、アメリカのPioneer社が育成したもので、1982年(昭57)以降「PH3201」の系統名で各種の試験を行い、1986年(昭61)に優良(準奨励)品種に決定した。単交雑(デント種×デント種)の一代雑種であるが、構成系統名は不明である。なお本品種は1981年(昭56)にOECDに登録されている。

- 特性概要 1. 出芽並びに初期生育は「ホクユウ」「バッファロー」より劣る。

